

令和4年度 第3回ゼロカーボン研究会 議事録

会議名	令和4年度 第3回ゼロカーボン研究会
テーマ	「業務部門の脱炭素化」
開催日時	令和4年10月6日(木) 13:30~15:30
開催場所	岡山ガス株式会社 新本社ビル5階大ホール
出席者	自治体：26名（うち1名リモート途中参加）、 事業者・その他：16名（リモート参加なし）、講師4名、事務局10名 計56名
配布資料	・資料1 令和4年度ゼロカーボン研究会の概要と第3回テーマについて ・資料2 令和5年度 環境省重点施策について ・資料3 令和5年度 概算要求の概要～中小企業の皆さまの脱炭素に向けて～ ・資料4 ZEBを取り巻く環境とその進め方 ・資料5 本社ビル ZEB化の経緯とガスを用いた ZEB化技術

1. 令和4年度ゼロカーボン研究会の概要と第3回テーマについて

研究会の概要と第3回のテーマについて事務局より説明。

2. 令和5年度 環境省重点施策について

環境省：市川様より説明を行った。質疑は特になかった。

3. 令和5年度 概算要求の概要～中小企業の皆さまの脱炭素に向けて～

経済産業省：和崎様（以下「和崎」と記載）より説明があり、下記のとおり質疑応答を行った。（敬称略）

岡山市（原田）

クリーンエネルギー自動車の補助金について、（今年度の予算が）10月中旬になくなるのではないかという話も聞いているが、どうなのか。また、来年度以降はどうなるのか。

岡山市としても住宅用、事業用で電気自動車購入等の（上乗せ）補助を行っており、需要が高まっている状況のためこの先が不安。

和崎

（経産省で）増額要求しているということは、ニーズが高い、あるいは重要視されている施策であると言える。今のところ、（来年度以降の）改悪という予定は聞いていない。ただし、補助金の仕組み上、予算に達すると終了ということはある。4月から開始した補助金が10月に予算達成するのか12月に予算達成するのか、そのあたりは読めない。

岡山市（原田）

（今年度の）補正予算などの情報はあるのか。

和崎

今のところまだわからない。

玉野市

資料にある J-クレジット入札価格の推移のグラフで、t-CO2 当りの価格について、再エネ発電と省エネの単価が 1500 円ほど乖離している※が、何か理由はあるのか。

（※2022 年 1 月：再エネ発電 2995 円/t-CO2、省エネ 1574 円/t-CO2）

和崎

推察できることとしては、世界で脱炭素化を目指している今、同じ電力を使うにしても“再生可能エネルギーを使用している”という証明が求められるような国際的なイニシアチブ（RE100 など）がある。

そういったことに敏感な企業にとっては、国のお墨付きの再生可能エネルギーを購入するインセンティブになると推察される。日本においては、国の制度として（RE100 に使える）クレジットをやりとりできるのは現在この制度（再エネ由来の J-クレジット）のみ。世界の流れとしてはできるだけクリーンなエネルギーを購入する、あるいはクリーンなエネルギーを使用して製品を作る、そういったことで価値を得るような市場が発展してきていると考える。

商工会議所（黒崎）

こういった施策に関して、支援策として新機関に情報提供をしていただいているか。商工会議所でアンケートを行ったところ、脱炭素への取組が出来ているのは全体のわずか 2 割であった。人材不足というものもあるが、情報不足やノウハウの不足が考えられるのではないか。

和崎

2 割程度が取り組んでいるというのは、私としては多いと感じた。

支援策ということだが、中国地方経済産業局の HP で、今使用できる補助金の資料集を掲載している。後ほど事務局から展開して共有する。

金光

先ほどの説明の中で“「ZEB 補助金が使いにくい」という声があった”と言われていたが、恐ら

く補助申請の要件の中に、ZEB にする場合と空調改修のみの場合とで比較して改修費を算出するというのがあり、こういった手間のことだと考える。これらは実証事業なので仕方ないと思うが、来年度も同様の要件があるのか。

和崎

経産省の補助金は実証性・先進性が要求されるため、(改修費の比較算出などの) 通常なら必要のない手続きが増えるということはある。来年度の運営方法については、まだ情報がきていないため分かりかねる。

4. ZEB を取り巻く環境とその進め方

備前グリーンエネルギー株式会社: 山口より説明があり、下記のとおり質疑応答を行った。
(敬称略)

岡山県 (平野)

補助金についてお伺いしたい。既存改修の ZEB 化では、旧耐震の建物を新耐震にするなど、要件は何かあるのか。

山口

環境省の補助金には「一般型」と「レジリエンス強化型」とがある。「レジリエンス強化型」は旧耐震のままでは申請が通らない。「一般型」では申請が出せるが、競争率が高い。環境省の補助金の中では“旧耐震の建物の建て替えに関して、優先採択を行う”という条件が今年からついている。旧耐震であれば、建て替えて新築 ZEB 化がいいかと思う。ただし、旧耐震であっても、耐震構造確認で耐震に問題がないことが証明されれば、(もしくは事業完了までに耐震整備が完了する計画であれば) 問題なく申請できる。

5. 本社ビル ZEB 化の経緯とガスを用いた ZEB 化技術

岡山ガス株式会社: 山村様より説明を行った。時間の関係で質疑応答は割愛。

6. 意見交換・質問

講師の説明を聞いて、下記の通り意見交換・質疑応答を行った。(敬称略)

金光

ガスでの ZEB 化を実現されているが、電気にはないガスでのメリットは何かあるのか。

山村

ガスの供給は途絶することはない。停電時対応型のコージェネレーションを採用することで、中圧ガス供給が続く限り、電池が活着ているので照明などにも使用できる。

金光

リードタイム（調達時間）が早いというようなことはあるのか。

山村

それは分かりかねる。

山口

このあと岡山ガス様の ZEB 化した新本社の見学を行うのに補足がある。

先ほど、山村様から設備の耐震性能 S クラスを取得したと説明があったが、これは建物の免振とは別で設備設置において、大きな災害の際に設備が転ばない、配管が切れないような設置の方法である。屋上を見学する際は、設備周辺に設置されているアンカーや置き基礎をよく見ていただきたい。このくらいしっかり固定することで耐震性能 S クラスを取得できるということを確認していただきたい。

金光

本日利用しているこのホールは天井放射の空調がついている。すごく静かで不快な風もない。こういったことも本日体感していただけたらと思う。

山口

窓ガラスは Low-E ガラスを導入しているが、近づいてみると通常の単板ガラスと比べて熱くないというのが体感いただける。

金光

Low-E ガラスの副次的なメリットとして、静粛性もある。車通りの多い道路に面していても建物内の静粛性が保たれて、快適性が上がる。こういった複層ガラスや天井放射の空調は静粛性の求められる図書館などでよく採用される。

山口

時々いただく質問で、「電気とガスどちらが ZEB にしやすいのか」というのがあるが、エネルギー源による差はほとんどない。電気でもガスでも ZEB にできる。新築でも既築でも ZEB にできる。

費用に関しては、新築の場合は安くやろうと思えばそれほど費用はかからない。SIIの研究では1割増しといわれている。タイミングが合えば補助金を活用、そうでなければ補助なしでも脱炭素に向けて取り組んでいただきたい。既存建築の場合では、どうしても高がつく。国の補助金を活用しながら進められたらと思うのでご相談ください。

以上